

## 自治体合併に対応した市区町村白地図出力ツール および統計データ調整ツールの開発と運用

蓮井 久美子<sup>1</sup>, 勝本 卓<sup>2</sup>, 林 典之<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 株式会社三菱総合研究所 地域経営研究本部, <sup>2</sup> 株式会社三菱総合研究所 社会システム研究本部  
連絡先: <shimu@mri.co.jp>

- (1) **動機:** 1995年に改定された合併特例法を受けて起こったいわゆる平成の大合併により、1995年4月には3,234あった市町村が、2009年4月には1,753市町村にまで減少した。この期間の市区町村別統計データを表現する地図を作成するには、膨大な地図および統計データの調整作業が必要となる。また、複数の統計データを用いて指標を作成する際などにも、集計単位を揃える作業が必要となる。
- (2) **アプローチ:** 自治体の廃置分合に伴う市区町村の境界および全国地方公共団体コードの変更(合体・編入・分割・分立・町制施行・名称変更・市制施行・郡の変更・政令市施行による行政区の設定)の全パターンに対応し、市区町村白地図の作成と統計データの調整を行うための必要情報を含む地図DBと配置分合DBを設計する。また、両DBを用いて、任意時点の市区町村白地図作成するWEBサービス(MRI Map Maker, 以下 MMM)と、任意時点の統計データを別の任意時点にあわせて調整する作業を行うアプリケーション(MRI Union Tool, 以下 MUT)を開発する。
- (3) **意義:** 最小限のメンテナンスコストで、任意時点の

市区町村白地図作成作業、および、任意時点の統計データを別の任意時点の市町村構成にあわせて調整する作業の効率化を実現できる。

(4) **特徴:**

**MMM:** 指定年月日の市区町村白地図を出力/配置分合DB(csv形式)の更新のみで最新時点の地図を生成・出力/単純なUI

**MUT:** 任意年月日の統計データを別の任意年月日の市町村構成にあわせて集計/配置分合DBの更新により最新時点への調整に対応/二時点間市町村合併対照表出力機能および全国地方港教団他コードの付番機能あり/単純なUI

- (5) **結果:** 2007年10月の社内サービス開始から約二年が経過したが、MMM/MUTを使用することで、任意時点の市区町村白地図の作成作業や、任意時点の統計データを別の任意時点の市町村構成にあわせて調整する作業を大幅に効率化することができた。また、MMM/MUTの存在により、これまで各種地理空間情報を業務に活用するケースや、分析を高度化するケースが増えた。

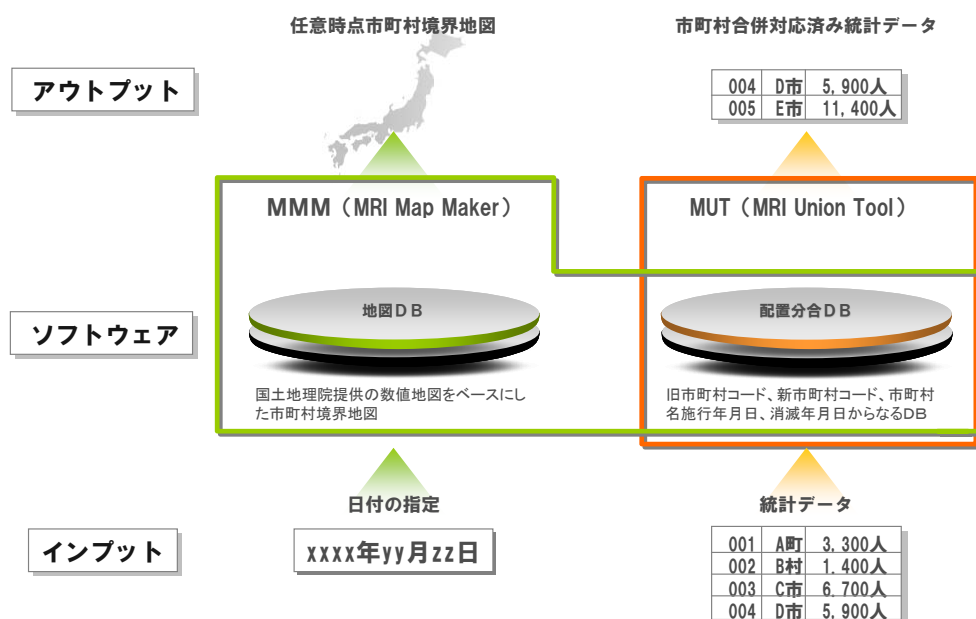


図 1: MMM/MUT および地図 DB, 配置分合 DB の関係